

さくら級 国語科授業実践

1 単元名 音読と言葉の学習

2 単元の評価規準（特別支援学校学習指導要領、国語科の目標）

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。	・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。	・言葉で伝え合う良さを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

3 教材のとらえ

本学級では、児童の生活に必要な能力の向上のため、文字の練習、語彙の獲得に力を入れているが、在籍する学年が同じでも、その能力はまちまちである。漢字やカタカナなどの学習は、個に応じた教材を準備しているため、学習形態も個別になりがちである。そこで、音読を同じ教材で行うなど、児童同士が関わりあいながら学習をする時間を意図的に設けている。

また、児童によっては集中できる時間が短く、気が散りがちであるため、複数の課題を次々に行うようにしたり、休憩をはさんだりするようにしている。

文字の学習では、個々に応じてドリルやプリント、絵カードを使っている。漢字は身に付く早さがゆっくりの児童がいるので、ワーキングメモリの特性に配慮した自作プリントを使用することもある。「かきかたプリントメーカー」で作成したプリントで、文字のなぞり書きと言葉を同時に学習する子もいる。

音読は、文章を目で追う力、見たものを言葉にして出す力が求められる。また、言葉を読み、意味を確かめることができ、児童の語彙力の向上に適した学習といえる。そこで本学級では、1～3年生の教科書の文章や「かきかたプリントメーカー」で作成したプリントを使って音読を行っているほか、宿題にもしている。また、今回は、聞く力、伝える力を養う目的で、互いに音読を聞きあい、相互評価を行う。

書字や音読の学習は、単元に関係なく年間を通して行っている。本時でも児童に合わせた教材を使って、個々の能力の向上を図るほか、音読を互いに聞き合うようにして、意見や感想を伝えることで、話す力、伝え合う力の向上を目指す。なお、これらの学習は「単元」で区切ることが難しいため、便宜的に音読教材の一区切りをもって一単元とした。

4 単元計画

時	学習活動	指導の手出	評価規準
1 3	○音読の課題の進め方を知る ・教師を相手に音読の練習をする。 ・ペア学習と評価の方法を知る。 ○文字、読み取りの学習をする。	・教師が音読を聞き、音読カードに評価を記入する。 ・ペア学習（音読）の進め方を説明する。	【知識・技能】 ・文字を正しく表記できる。 ・なぞり書きができる。 ・文章や文字を正しく読むことができる。

4 5 6 (本時)	○ペア音読をする。 ・友達に音読を聞いてもらう。 ○文字、読み取りの学習をする。	・発語が少ない児童に、感想を伝える支援を行う。	【思考・判断】 ・音読では、適当な速さで読むことができる。また評価を考えることができる。 ・文章の要点を読み取ることができる。
7 8 9	○ペア音読をする。 ・友達に評価を伝える。発語が少ない友達からは、感想を聞き出す。 ○文字、読み取りの学習をする。	・相手から感想を聞き出すなど、児童同士のコミュニケーションを促す。	【主体的に取り組む態度】 ・学習に集中して取り組むことができる。

5 本時の指導案（6時間目／9時間）

（1）本時の目標（丸数字は、学習指導要領が定める段階）

	目標A	目標B	目標C
書く	②拗音促音等を正しく書く。	②簡単な文字や語句のなぞり書きができる。	③簡単な語句や短い文を正しく丁寧に書く。
読む	②登場するものの動作などを想像しながら読む。	②言葉などを模倣しながら読む。	③内容の大体を捉えながら読む。
話す・聞く	②聞いたことなどについて伝えたいことを考える。	②相手の話に関心を持つ。相手を見ながら聞く。	②相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付ける。

（実際には、目標A～Cを在籍児童一人ひとりに当てはめた。）

（2）本時の学習

学習活動		教師の支援
○ペア音読をする。 ・二人組で音読を聞かせあう。 ・相手の音読に対して評価をする。 →用紙に丸を付けたり、言葉で伝えたりする。 ・お互いの用紙にシールを貼る。		・必要に応じて付き添い支援する。 ・ほめる言葉や助言を例示して、児童が評価を口頭で伝えられるようにする。 ・発語による評価が難しい児童には、評価欄に丸を付けるよう指導する。
Aグループ	Bグループ	・児童の様子を見つつ、読書やお絵かきなどの休憩を挟む。 ・必要に応じて付き添いをしつつ、他の児童にも声掛けをする。 ・「できました」「分かりません」を教師に伝えられるように事前に指導する。 ・プリント等の評価や見直しが終わった児童には、「座席でできること」をして待つよう指導する。
○音読した教材の読み取り学習をする。	○音読した教材のなぞり書きをする。 ・休憩を挟みつつ行う。	
○漢字等の学習をする。 ・漢字ドリル ・拗音促音の入ったひらがな、カタカナの練習	○文字の学習をする。 ・なぞり書き ・視写の練習	

（児童の実態に応じて、途中からAグループ、Bグループに分かれて活動した。）